

IBM SPSS Collaboration and  
Deployment Services 5 トラブ  
ルシューティング ガイド



注： この情報をおよびサポートされている製品を使用する前に、注意事項 p. 28 の一般情報をお読みください。

このエディションは IBM SPSS Collaboration and Deployment Services 5 および新しいエディションで指示がない限りすべての後続リリースと変更に適用されます。

アドビ製品の画面コピーは、Adobe Systems Incorporated の承認を得て掲載しています。

Microsoft 製品の画面コピーは、Microsoft Corporation の承認を得て掲載しています。

ライセンスの対象 - IBM の所有物

**© Copyright IBM Corporation 2000, 2012.**

米国政府機関によるユーザーの権利の制限 - IBM Corporation との GSA ADP Schedule Contract により、使用、複製または情報の開示が制限されています。

---

# はじめに

## IBM Business Analytics について

IBM Business Analytics ソフトウェアは、意思決定者がビジネスのパフォーマンスを向上させるために信頼できる、完全な一貫性のある正確な情報を提供します。ビジネス インテリジェンス、予測分析、財務実績と戦略管理、および分析アプリケーションの包括的なポートフォリオは、現在のパフォーマンスと将来の結果を予測する機能に、明確な即時かつ実用的な洞察を提供しています。豊富な業種別ソリューション、実証済みのプラクティスおよびプロフェッショナルサービスと組み合わせることで、あらゆる規模の組織で最高の生産性を実現することができ、自信を持って意思決定を自動化し、より良い結果を提供します。

このポートフォリオの一部として、IBM SPSS Predictive Analytics ソフトウェアは、組織が将来の事象を予測し、積極的にビジネスのより良い成果を実現するために、その洞察力に基づいて行動することができます。不正やリスクを軽減しながら、民間、政府および教育機関のお客様が、世界中の顧客を引き付け、維持し、拡大するうえでの競争上の優位性として、IBM SPSSのテクノロジーを信頼しています。日常業務に IBM SPSS ソフトウェアを組み込むことにより、組織はビジネス目標を達成し、測定可能な競争上の優位性を実現するために意思決定を指示および自動化できる予測可能な企業体となるのです。詳細、または営業担当者にご連絡する際は、<http://www.ibm.com/spss> をご覧ください。

## テクニカル サポート

テクニカルサポートは、お客様にご利用いただけます。IBM Corp. 製品の使用方法、または対応するハードウェア環境へのインストールについてサポートが必要な場合は、テクニカル サポートにご連絡ください。テクニカル サポートをご利用いただくには、IBM Corp. Web サイト (<http://www.ibm.com/support>) にアクセスしてください。お客様の身分、組織を示すもの、サポート同意書をご用意ください。

---

# 内容

<b>1</b>	<b>基本トピック</b>	<b>1</b>
	トラブルシューティングの手法	1
	ナレッジベースの検索	3
	修正の入手	5
	IBM サポートへのお問い合わせ	5
	IBM との情報交換	7
	IBM サポートへの情報の送信	7
	IBM サポートからの情報の受信	8
	サポートアップデートへの登録	9
<b>2</b>	<b>IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository のトラブルシューティング</b>	<b>11</b>
	ログの取得	11
	全般トピック	12
	AIX	15
	Linux	15
	Windows	16
	HP-UX	16
	DB2	16
	Oracle Database	17
	WebSphere	17
	JBoss	19
	WebLogic	20
<b>3</b>	<b>IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager のトラブルシューティング</b>	<b>21</b>
	ログの取得	21
	タイムアウトエラー	21
	不完全なゲイン グラフ	22
	「新しいスコアリング構成詳細の作成に失敗しました」エラー	22

**4 BIRT Report Designer for IBM SPSS のトラブルシューティング 23**

データセット作成時にテーブルがない . . . . . 23

**5 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のトラブルシューティング 24**

一般的な問題 . . . . . 24

エラー . . . . . 25

レポートの問題 . . . . . 25

Office ドキュメントが新しいウィンドウで開かれる . . . . . 26

**付録**

**A 注意事項 28**

**索引 31**



# 基本トピック

## トラブルシューティングの手法

トラブルシューティングは、問題を解決するための体系的なアプローチです。トラブルシューティングの目標は、あることがが期待どおりに動作していない理由や問題を解決する方法を判断することです。

トラブルシューティング プロセスの最初のステップは、問題を詳細に記述することです。問題を説明することによって、お客様と IBM® の技術サポート担当者が問題の原因をどこで見つけたらいいのかを知ることができます。このステップでは、お客様自身に基本的な質問をします。

- 問題の症状はどのようなものですか？
- 問題はどこで発生しますか？
- 問題はいつ発生しますか？
- 問題はどのような条件で発生しますか？
- 問題を再現することはできますか？

これらの質問に対して答えることによって問題を詳細に説明でき、問題の解決に繋がります。

### 問題の症状はどのようなものですか？

問題の記述を始める際、最も明らかな疑問は、「何が問題なのか？」ということです。この質問は簡単と思われませんが、問題のより説明的なイメージを作成することにより焦点を絞った質問に区分することができます。こうした質問には、次のようなものがあります。

- 問題を報告しているのは誰、または何か？
- エラーコードおよびメッセージは何か？
- どのようにシステムに障害が発生したか？たとえば、ループ、ハング、クラッシュ、パフォーマンスの低下、または不正確な結果は？

### 問題はどこで発生しますか？

問題の発生源の判別は必ずしも容易ではありませんが、それは問題を解決する上で最も重要なステップの一つです。コンポーネントのレポート作成と障害の間に技術の多くの層が存在する場合があります。ネットワーク、

ディスク、およびドライバーは、問題を調査している際に考慮すべきコンポーネントのほんの一部です。

問題の発生場所に焦点を当てて問題のある層を探し出すには、以下の問題が役立ちます。

- 1 つのプラットフォームまたはオペレーティングシステムに特有の問題がありますか？またはそれは複数のプラットフォームまたはオペレーティングシステムで共通ですか？
- 現在の環境と設定はサポートされていますか？

1 つの層で問題が報告された場合、問題は必ずしもその層に原因があるわけではありません。問題の発生源の識別することは、問題が発生した環境を理解することです。オペレーティング システムやバージョン、対応するすべてのソフトウェアとバージョン、およびハードウェアの情報を含む、問題の環境を詳細に記述するには時間がかかります。サポートされた構成である環境内で実行していることを確認してください。多くの問題が、同時に実行するように意図されていなかったり、完全にテストされていないソフトウェアの互換性のないレベルにまで遡ることができます。

### 問題はいつ発生しますか？

特に一度の発生の場合に、障害に至るまでのイベントの詳細なタイムラインを作成します。時間を遡ることによってタイムラインを最も容易に作成することができます。エラーが報告された時間から始まり（ミリ秒単位など、できる限り正確に）、利用可能なログや情報によって遡ります。通常、診断ログで最初に見つかるできる限り疑わしいイベントを探す必要があります。

イベントの詳細なタイムラインを作成するには、以下の質問に回答します。

- 問題は昼間または夜間の特定の時刻にのみ発生しますか？
- 問題はどのくらいの頻度で起こりますか？
- 問題が報告される時間までのイベントの順序は？
- ソフトウェアやハードウェアのアップグレードまたはインストールなど、環境が変化した後に問題が発生しますか？

これらのタイプの質問に答えることで、問題を調査するための基準の枠組を作ることができます。

### 問題はどのような条件で発生しますか？

問題が発生した時に実行されているシステムやアプリケーションを知ることは、トラブルシューティングの重要な部分です。ご使用の環境について問題の根本原因を識別するには、以下の質問が役立ちます。

- 問題は、同じタスクが実行されているときに常に発生しますか？

- 問題が表面化するには、イベントが特定の順序で発生する必要がありますか？
- 他のアプリケーションは同時に障害が発生しますか？

これらのタイプの質問に答えることで、問題が発生する環境を説明し、すべての依存関係を相関させることができます。複数の問題がほぼ同時に発生した可能性があるという理由だけで、問題は必ずしも関連していないことに注意してください。

#### **問題を再現することはできますか？**

トラブルシューティングの観点から、問題を再現できることは理想的です。通常、問題を再現できる場合、調査に役立つ自由に使えるツールや手順が数多くあります。したがって、再現できる問題は多くの場合、容易にデバッグおよび解決できます。ただし、再現できる問題には欠点もある場合があります。問題が業務に大きな影響がある場合、それを再現する必要はありません。可能であれば、調査の間より柔軟性と制御を提供する、テストまたは開発環境で問題を再現してください。

- 問題をテスト システムで再現することができますか？
- 複数のユーザーやアプリケーションに同じタイプの問題が発生していますか？
- 単一のコマンド、コマンドのセット、または特定のアプリケーションを実行して問題を再現することはできますか？

## **ナレッジ ベースの検索**

IBM® のナレッジベースを検索することによって問題の解決策を見つけることができます。使用可能なリソース、サポート ツール、および検索方法を使用することにより結果を最適化することができます。

#### **このタスクについて**

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services のインフォメーション センターを検索して役立つ情報を見つけることができますが、質問に回答したり問題を解決するには、インフォメーション センター以外に探す必要があることがあります。

## 手順

必要な情報についてナレッジ ベースを検索するには、以下の方法のうち 1 つまたは複数の方法を使用します。

- **IBM サポート ポータル** (<http://www.ibm.com/support/us/en/>)を使用して、必要なコンテンツを検索する。ご使用の IBM 製品とともに、**SPSS Collaboration and Deployment Services** を製品リストに追加してください。  
IBM サポート ポータルは、すべての IBM システム、ソフトウェア、およびサービスのすべてのテクニカル サポート ツールおよび情報の統一された、集中管理ビューです。IBM サポート ポータルを使用して、1 つの場所から IBM のエレクトリック サポート ポートフォリオを利用できます。ページを調整して、問題の予防および迅速な問題解決のために必要な情報とリソースに焦点を当てることができます。ツールについての**デモ ビデオ** ([https://www.ibm.com/blogs/SPNA/entry/the\\_ibm\\_support\\_portal\\_videos](https://www.ibm.com/blogs/SPNA/entry/the_ibm_support_portal_videos))をご覧ください。IBM サポート ポータルについてご理解ください。これらのビデオは、IBM サポートポータルを紹介し、トラブルシューティングやその他のリソースを探索し、ポートレットを移動、追加、および削除することによってページを調整する方法を示します。
- 次の追加の技術リソースのいずれかを使用して IBM SPSS Collaboration and Deployment Services に関するコンテンツを検索する。
  - IBM SPSS Collaboration and Deployment Services **TechNotes** および **APAR (問題レポート)**
  - IBM SPSS Collaboration and Deployment Services **サポート Web サイト**
  - **IBM Redbooks®** (<http://www.redbooks.ibm.com/cgi-bin/searchsite.cgi?query=SPSS&SearchOrder=1>)
- IBM マストヘッド検索を使用してコンテンツを検索する。ibm.com® のページの上部にある検索フィールドに検索文字列を入力して IBM マストヘッド検索を使用することができます。
- Google や Yahoo、または Bing などの外部の検索エンジンを使用してコンテンツを検索する。外部の検索エンジンを使用する場合、結果に ibm.com ドメイン外にある情報が含まれる可能性が高くなります。しかし、場合によっては ibm.com 上にないニュースグループ、フォーラム、および ブログの IBM 製品についての問題解決のための役立つ情報を見つけることができます。  
ヒント: IBM 製品に関する情報を検索している場合は、「IBM」や製品の名前を検索に含めてください。

## 修正の入手

問題を解決するために製品の修正プログラムが用意されている場合があります。

### 手順

修正プログラムを見つけてインストールするには

1. インストールしていない場合は、IBM® の製品更新プログラムのインストーラを入手してください。「更新プログラム インストーラのインストール」を参照してください。
2. 必要な修正プログラムを確認します。
  - a. IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services の推奨される修正プログラムをチェックして、お使いのソフトウェアが最新のメンテナンスレベルになっていることを確認します。
  - b. IBM が問題を解決する個々の修正プログラムを公開しているかどうかを確認します。表示された各修正パックおよび更新パックに利用可能な IBM SPSS Collaboration and Deployment Services の readme ファイルで修正されている問題のリストを確認してください。
3. 修正プログラムをダウンロードします。

ダウンロード マニュアルを開き、[パッケージのダウンロード] セクションのリンクを参照します。

  - b. ファイルをダウンロードする場合、メンテナンス ファイルの名前が変更されていないことを確認します。変更が意図的な変更であることも、特定のWebブラウザまたはダウンロードのユーティリティによって引き起こされる、不注意による変更であることもあります。
4. 修正プログラムを適用します。
  - a. ダウンロード マニュアルのインストール手順のセクションの指示に従います。
  - b. 修正プログラムおよびその他の IBM のサポート情報に関する週 1 回発行の電子メール通知を受信するよう登録します。

## IBM サポートへのお問い合わせ

IBM® サポートは、FAQ への回答、および再検出を実行して、製品の欠陥に対する支援を行っています。

## 作業を始める前に

テクニカルノートなどの他のセルフヘルプ オプションを使用して、答えや解決策を見つけることを試みた後、IBM サポートにお問い合わせいただくこともできます。IBM サポートにお問い合わせいただく前に、お客様の会社が、アクティブな IBM ソフトウェアの登録およびサポート契約が必要であり、IBM に問題を送信する権限が必要です。利用可能なサポートの種類についての詳細は、『Software Support Handbook』の「[Support portfolio \(http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/handbook/offerings.html\)](http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/handbook/offerings.html)」を参照してください。

## 手順

以下の手順で、IBM サポートに連絡します。

1. 問題を定義、背景情報を収集し、問題の重大度を確認します。ヘルプについては、『Software Support Handbook』の「[Getting IBM® support \(http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/handbook/getsupport.html\)](http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/handbook/getsupport.html)」を参照してください。
2. 診断情報を収集します。
3. 次のいずれかの方法で IBM サポートに問題を送信します。
  - IBM Support Assistant (ISA) の使用：この機能を使用して、IBM の Electronic Service Request を開き、更新、表示します。収集されたすべてのデータは、サービス リクエストに添付することができます。分析が速くなるため、解決までの時間が短縮されます。
  - IBM サポート ポータル (<http://www.ibm.com/software/support/>) の利用：[Service Request] ページの [Service Request] ポートレットからサービス リクエストをすべて開き、更新、参照することができます。
  - 電話による利用：お住まいの地域の電話番号については、[Directory of worldwide contacts \(http://www.ibm.com/planetwide/\)](http://www.ibm.com/planetwide/) Web ページを参照してください。

## 結果

送信した問題がソフトウェアの欠陥またはマニュアルの欠落または不正確性によるものである場合、IBM サポートがプログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR では、詳細に問題を説明します。可能な限り、IBM サポートは、APARが解決されて修正プログラムが配布されるまで実装可能な回避策が用意されています。IBM は、同じ問題が発生した場合に、他のユーザーが同じ解決策の恩恵を受けることができるように、IBM サポートのWebサイト上で解決された APAR を公開しています。

ご使用のコンピュータにダウンロードできるリモートアシスタンス プラグインである、IBM Assist On-Site を使用して、IBM テクニカルサポートの担当者に連絡することができます。IBM テクニカルサポート担当者は、IBM Assist On-Site を使用して、お客様のデスクトップを表示し、マウスとキーボードのコントロールを共有することができます。このツールは、問題を特定、必要なデータを収集し、問題を解決するためにかかる時間を短縮することができます。詳細は、[IBM Assist On-Site \(http://www.ibm.com/support/assistsite/\)](http://www.ibm.com/support/assistsite/) を参照してください。

## IBM との情報交換

問題を診断したり、特定するには、システムからのデータと情報を IBM® サポートに提供する必要があります。IBM サポートが、問題判別に使用するツールやユーティリティを提供する場合があります。

## IBM サポートへの情報の送信

問題を解決するのにかかる時間を短縮するために、IBM® サポートにトレースおよび診断情報を送信することができます。

### 手順

診断情報を IBM サポートに送信するには

1. 問題管理レコード (PMR) を開きます。IBM® Support Assistant (<http://www.ibm.com/software/support/isa/>) または Service Request tool (<http://www.ibm.com/support/servicerequest>) を使用できます。
2. 必要な診断データを収集します。診断データは、PMR を解決するのにかかる時間を短縮できます。次のように、手動または自動的に診断データを収集することができます。
  - データを手動で収集します。
  - データを自動的に収集します。IBM Support Assistant (ISA) Lite (<http://www.ibm.com/software/support/isa/download.html>) を使用して、必要なデータを収集します。
3. ZIP または TAR 形式を使用してファイルを圧縮します。
4. ファイルを IBM に転送します。次のいずれかの方法を使用できます。
  - IBM Support Assistant (<http://www.ibm.com/software/support/isa/>)
  - Service Request ツール (<http://www.ibm.com/support/servicerequest>)
  - 標準のデータ アップロード方法: FTP、HTTP

- 安全なデータ アップロード方法: FTPS、SFTP、HTTPS
- 電子メール

IBM サポート Web サイト

(<http://www-01.ibm.com/software/support/exchangeinfo.html>) でデータ交換の方法について説明しています。

## IBM サポートからの情報の受信

IBM® テクニカル サポート担当者が診断ツールまたは他のファイルをダウンロードするように求める場合があります。FTP を使用してこれらのファイルをダウンロードできます。

### 作業を始める前に

IBM テクニカル サポート担当者が、ファイルをダウンロードするために使用する優先サーバーやアクセスするディレクトリとファイルの正確な名前を通知していることを確認します。

### 手順

IBM サポートからファイルをダウンロードするには

1. FTP を使用して IBM テクニカルサポート担当者が提供したサイトに接続し、`anonymous` としてログインします。パスワードとして電子メール アドレスを使用します。
2. 該当するディレクトリに移動します。
  - a. `/fromibm` ディレクトリに移動します。

```
cd fromibm
```
  - b. IBM テクニカルサポート担当者が指定したディレクトリに移動します。

```
cd nameofdirectory
```
3. セッションのバイナリ モードを有効にします。

```
binary
```
4. `get` コマンドを使用して、IBM テクニカルサポート担当者が指定したファイルをダウンロードします。

```
get filename.extension
```
5. FTP セッションを終了します。

```
quit
```

## サポート アップデートへの登録

ご使用の IBM® 製品に関する重要な情報を通知するために、アップデートの登録を行うことができます。

### このタスクについて

アップデート情報の受信を登録することにより、特定の IBM サポート ツールとリソースに関する重要な技術情報およびアップデートを受け取ることができます。アップデートを購読するには次の 2 つの方法があります。

### RSS フィードおよびソーシャル メディアの登録

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services 向けに、以下の RSS フィードとソーシャル メディアを登録できます。

- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services インフォメーション センター。情報の定期的なアップデートを通知するために使用できる RSS フィードがあります。

最初の手順やRSS 対応の IBM Web ページのリストなど、RSS に関する一般情報については、[www.ibm.com/software/support/rss/](http://www.ibm.com/software/support/rss/) (<http://www.ibm.com/software/support/rss/>) を参照してください。

### My Notifications

My Notifications を使用して、IBM 製品のアップデートをサポートのアップデートを登録することができます。(My Notifications は My Support に代わる機能で、以前使用していたツールと同様のものです) My Notifications で、毎日または毎週、電子メールによるお知らせを受信するように指定できます。受信したい情報（出版物、ヒント、製品の速報（アラート）、ダウンロード、ドライバなど）の種類を指定することができます。My Notifications によって、通知を受けたい製品やニーズに最も適した配信方法をカスタマイズして分類することができます。

### 手順

サポート アップデートを登録するには

1. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services インフォメーション センター RSS フィードに登録して、情報の定期的なアップデートを通知できるようにします。RSS フィードを設定するには、インフォメーション センターの RSS フィード設定ページ に移動します。
2. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services RSS フィードに登録し、製品に関する IBM ソフトウェア サポートの最新コンテンツをアップ

デートできるようにします。登録するには、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services [RSS フィード ページ](#)に移動します。

3. My Notifications に登録するには、[IBM Support Portal](#) (<http://www.ibm.com/software/support/>)に移動し、[Notifications] ポートレットの [\[Manage all my subscriptions\]](#) をクリックします。
4. IBM ID とパスワードを使用してサインインし、[\[Submit\]](#) をクリックします。
5. アップデートの受信内容および方法を特定します。
  - a. [\[Subscribe\]](#) タブをクリックします。
  - b. [\[Information Management\]](#) または別のソフトウェア ブランドまたはハードウェアの種類をクリックします。
  - c. [\[SPSS Collaboration and Deployment Services\]](#) をクリックし、使用する追加製品の名前を選択します。[\[Continue\]](#) をクリックします。
  - d. アップデートの受信方法、電子メール、専用フォルダを使用してオンラインで、RSS または Atom フィードのいずれかの設定を選択します。
  - e. 製品のダウンロードおよびディスカッション グループのコメントに関する新しい情報など、受信したいドキュメントの更新の種類を選択します。

[\[Submit\]](#) をクリックします。

## 結果

RSS フィードや My Notifications の設定を変更するまで、要求したアップデートの通知を受信します。(ある製品の使用を停止し、別の製品の使用を開始するなど) 必要に応じて、設定変更することができます。

## 関連情報

[IBM Software Support RSS フィード](#)  
(<http://www.ibm.com/software/support/rss/>)

[My Notifications サポート コンテンツのアップデートへの登録](#)  
(<http://www.ibm.com/software/support/einfo.html>)

[IBM テクニカル サポート サインイン ページの My notifications](#)  
(<http://www.ibm.com/support/mynotifications>)

[IBM テクニカル サポート概要ツアーの My notifications](#)  
([http://www.ibm.com/software/support/viewlet/my\\_notifications\\_viewlet\\_swf.html](http://www.ibm.com/software/support/viewlet/my_notifications_viewlet_swf.html))

# IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository のトラブルシューティング

このセクションのトピックでは、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository に関連するトラブルシューティングの役立つ情報が提供されています。

## ログの取得

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository をインストールして使用する場合、なんらかのエラー メッセージや状況が発生する場合があります。どのような場合でも、リポジトリのログ ファイルを参照して、問題の原因を明確にすることが推奨されます。

### リポジトリ インストールのログ

最初のインストール時に問題が発生した場合、IBM Installation Manager ログを使用してトラブルシューティングすることができます。ログ ファイルは、IBM Installation Manager のメイン メニューから表示することができます。

リポジトリ設定時に問題が発生した場合、<IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository installation directory>/log の以下のログ ファイルを検証してください。

- engine.log
- engine\_ant.log
- enginOutErr.log

### IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Package Manager ログ

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Package Manager ログは <repository installation directory>/log にあります。

- packageManagerTool.log
- packageManager\_ant.log

## ランタイム ログ

デフォルトでは、次のタイムスタンプ付きランタイム ログが生成されます

- メイン ログ (cds.log)
- エクスポート-インポート トランザクション ログ (cds\_transfer.log)

ログ ファイルのデフォルトの場所は、ホスト アプリケーション サーバーによって異なります。

- **WebSphere:**<WebSphere profile directory>/logs/
- **JBoss:**<JBoss server directory>/log/
- **WebLogic:**<WebLogic domain directory>/servers/<server name>/logs/

ログ記録出力は、ホスト アプリケーション サーバーの log4j 構成ファイルを変更してカスタマイズすることができます。詳細は、『IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository 5 インストールおよび構成ガイド』の該当するセクションを参照してください。

## 全般トピック

### リポジトリを起動および展開するときにパフォーマンス ボトルネックと CPU 使用量に関する問題をどのように回避できますか。

システム構成によって異なります。インストールされているウイルス対策ソフトウェアやスパイウェア対策ソフトウェアがアプリケーション コンポーネントの「ディープ スキャン」を実行するように設定されている場合があります。このようなサードパーティのアプリケーションは、特定の時間にスキャンを実行するように再設定できます。また、インストール時にオフにして、後で手動で再起動することもできます。

さらに、より厳密なサーバー側のファイアウォール設定により、起動時のパフォーマンスに悪影響が及んだり、アクセスが不可能になる場合があります。

サービスを起動したときにシステムのパフォーマンスが大幅に低下する場合は、不必要なプロセスをすべて無効にした後でリポジトリを再起動してください。

### どのようにアクセスしてデータベースを決定することができますか？

詳細なデータベース接続情報およびその他のシステムとバージョンの詳細は、ブラウザベースの IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager インターフェイスからダウンロードすることができます。

1. ログイン後、ナビゲーション リストのオプションから [バージョン情報] をクリックします。
2. [詳細を表示] をクリックして、画面下で [ダウンロード バージョンとシステムの詳細] リンクをクリックします。ファイルを保存します。
3. テキスト エディタでファイルを開き「Database Details」を探します。このセクションには、名前、バージョン、テーブル一覧など、使用するデータベースの詳細情報が含まれています。

### アプリケーションで java.lang.OutOfMemoryError: PermGen space 例外がスローされました。

このエラーは、多数のクラスが使用されることによって、JVM で永久ジェネレーション ヒープの領域を使い果たした場合に発生します。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services または設定ユーティリティまたはパッケージ マネージャなどのユーティリティ アプリケーションを実行する場合、このエラーが発生する場合があります。システムのメモリ設定によって、アプリケーション サーバーおよびユーティリティ アプリケーションの開始スクリプトの PermSize JVM パラメータで指定された値を大きくしたり小さくしたりします。アプリケーション サーバーおよびユーティリティが消費するメモリの合計がシステムの空きメモリより大幅に小さい場合、メモリ不足の例外が発生し、値を大きくする必要があります。アプリケーション サーバーおよびユーティリティが消費するメモリの合計がシステムの空きメモリより大きい場合、永続ジェネレーション ヒープ サイズを小さくします。

たとえば、Windows の WebSphere インストールの場合、ラッパー サービスが使用できる永久ジェネレーション ヒープのサイズを増やすには、`<WebSphere directory>/bin/wsadmin.bat` で変更できます。

```
set PERFFJVAOPTIION=-Xms256m -Xmx256m -Xj9 -Xquickstart
```

その他のアプリケーション サーバーで、永久ジェネレーション ヒープ サイズを増加する方法については、該当するアプリケーション サーバーのベンダーから提供されるドキュメンテーションを参照してください。

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Package Manager の実行中にメモリ エラーが発生した場合、ユーティリティの起動スクリプトの該当する行のコメントを削除して、メモリの割り当ておよびガーベジ コレクションの追加の JVM オプションを有効にすることができます。たとえば、cliPackageManager.bat の場合、次の行のコメントを削除する必要があります。

```
REM SET MEM_SETTINGS=%MEM_SETTINGS% -XX:+CMSPermGenSweepingEnabled  
-XX:+CMSClassUnloadingEnabled
```

最大ヒープ サイズおよび永久生成スペース パラメータの値を小さくすることもできます。次に例を示します。

```
-Xmx1024m -XX:PermSize=512m
```

次のように変更できます。

```
-Xmx512m -XX:PermSize=256m
```

**UNIX システム上のリポジトリで処理される SAS シンタックスのジョブは、無効なライブラリ名によるデータベース接続エラー (「エラー: LIBNAME ステートメントのエラー」) を生成して失敗します。**

共有ライブラリ パスの環境変数 (Solaris では LD\_LIBRARY\_PATH、HP-UX では SHLIB\_PATH、AIX では LIBPATH) が適切な値に設定されていることを確認します。

### キーストア ファイルがなくなった場合のリポジトリの復元方法

キーストア ファイルには、データベース アクセスのマスタ パスワードなど、リポジトリが使用する暗号化パスワードの暗号化に使用するキーが含まれます。キーストア ファイルがなくなった場合、システムが使用できなくなります。キーストアのバックアップが使用できる場合、元の場所に復元できます。キーストアの元のパスがわからない場合、`<repository installation directory>/platform/engineConfig.properties` の `keystoreSecurity` 要素の `keystorePath` プロパティを検索できます。

キーストア ファイルがなくなり、バックアップも使用できない場合、`<repository installation directory>/bin` のセットアップ ユーティリティを再実行し、既存のリポジトリ データベースを示して、システムを再インストールする必要があります。外部ディレクトリ サービスのパスワードや定義された資格情報など、システム内に存在するすべてのパスワードは、手動で再入力する必要があります。

### リポジトリ データベースに障害が発生した場合

- リポジトリの起動時にデータベースに障害が発生した場合、データベースの問題を修正し、リポジトリを再起動します。
- リポジトリの実行時にデータベースがダウンした場合、データベースの問題を修正します。データベースが長時間ダウンしている場合、リポジトリを停止してリポジトリ ユーザーに予期しないエラーが発生しないようにします。データベースを再起動してもエラーが続く場合、リポジトリを再起動する必要があります。

## AIX

### IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository またはアダプターを AIX にインストールする際のメモリ エラー

インストール プロセスがユーザーのメモリ使用量の制限を超えたときにエラーが発生する可能性があります。このような場合、データ領域、物理メモリ、およびスタックサイズの大きさを確認するために、ulimit コマンドを使用することをお勧めします。

```
ulimit -d  
ulimit -s  
ulimit -m
```

ユーザーのメモリの制限を、次のように増加または無制限設定する必要がある場合があります。

```
ulimit -d unlimited  
ulimit -s unlimited  
ulimit -m unlimited
```

Java環境設定の更新が必要な場合もあります。

```
export LDR_CNTRL=MAXDATA=0XB0000000@DSA  
export IBM_JAVA_MMAP_JAVA_HEAP=true
```

## Linux

### Linux でのリポジトリのインストールまたは実行時の「開いているファイルが多すぎます」エラー

ユーザーの使用ファイル制限がデフォルトの設定を超えている場合、このエラーが発生します。次のコマンドを使用して、ユーザーの使用ファイル制限をチェックできます。

```
ulimit -n
```

デフォルト値は 1024 です。次のコマンドを実行して、ユーザーの開いているファイル制限を大きくすることができます。

```
ulimit -n value
```

たとえば、IBM® SPSS® Modeler ジョブの特定の処理に多くのファイルが含まれる場合があるため、できる限り値を大きく設定することをお勧めします。新しい制限を有効にするには、システムの再起動が必要です。

## Windows

### リポジトリ構成ユーティリティを実行した後にMicrosoft Visual C++ 再頒布可能パッケージがないという警告が表示される

Windows で IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository 構成を完了した後、Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージがないという警告が表示される場合があります。

警告が表示されたら、リポジトリを起動する前にご使用の Windows バージョン向けの Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージをダウンロードしてインストールしてください。

## HP-UX

### HP-UX でリポジトリを NFS とともに実行した場合のインポートの失敗

HP-UX で NFS とともに実行するリポジトリにリソースをインポートすると、次の例外エラーが発生します。

```
java.lang.RuntimeException: The database is already in use by another process: org.hsqldb.persist.
NIOLockFile@3ffdc36b[file
=/qa/projects/pes/HPUX/appserv/bea11g/user_projects/domains/Domain41B179a/cds_transfer_root/
0a0b0ad397fef2c500000126b4ca991881ab/0a0b0ad397fef2c500000126b4ca991881ad_transfer_database.lock,
exists=true, locked=false, valid=false, fl =null];
```

問題を解決するには、ブラウザベースの IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager を使用して、[リポジトリ] → [リソース転送ロックアップ テーブル] 構成オプションの値を **MEMORY** に設定します。詳細は、『IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services 管理マニュアル』を参照してください。

## DB2

### リポジトリ構成ユーティリティの実行時の SQL エラー

DB2 データベースでリポジトリ構成ユーティリティを実行すると、次の様なエラーが発生する場合があります。

```
ERROR: Rethrowing SQL Exception as MetaException: java.sql.SQLException:
[SPSSOEM][DB2 JDBC Driver]Invalid operation for the current cursor position...
```

このエラーは、DB2 構成パラメータが不適切である場合に発生します。パラメータを正しく設定するには、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services の配布に含まれるスクリプトを使用してリポジトリ データベー

スを作成することをお勧めします。スクリプトの詳細については、『IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository 5 インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

## Oracle Database

**ユーザーとテーブルスペースはどのように作成しますか。**

リポジトリ データベース接続のユーザーとテーブル領域 (cds\_user など) をクリアして再確立するには、次のコマンドを発行します。

```
DROP USER CDS_USER CASCADE; CREATE USER CDS_USER IDENTIFIED BY CDS_USER
DEFAULT TABLESPACE CDS_USER TEMPORARY TABLESPACE TEMP
QUOTA UNLIMITED ON CDS_USER;
@$ORACLE_HOME/sqlplus/admin/pupbld;
GRANT CONNECT, RESOURCE, UNLIMITED TABLESPACE TO CDS_USER;
```

## WebSphere

**WebSphere アプリケーション サーバーを使用するリポジトリへのパッケージ インストール (Package Manager を使用) の実行中にエラーが発生します。**

最新のベンダー パッチがアプリケーション サーバーに適用されていることを確認してください。

**サーバー ログは、例外 com.ibm.crypto.provider.AESCipher.engineGetKeySize(Unknown Source) などの暗号化エラーを報告します。**

このエラーは、パスワード値が不適切である場合に発生します。エラーを修正するには、cds\_keystore\_password の値を

<repository installation directory>/platform/engineConfig.properties

を platform.keystore.password (

<WebSphere home>/profiles/<profile name>/config/cells/<cell name>/nodes/<node name>/servers/<server name>/server.xml) にコピーします。

**“CWSIS1535E: The messaging engine’s unique id does not match that found in the data store” エラー**

リポジトリを停止して、SIB 接頭辞で始まる名前のリポジトリ データベース テーブルを削除することによって、エラーを修正できます。リポジトリを再起動すると、テーブルが再作成されます。現在保存されている永続メッセージを保持する必要がある場合にのみ、この解決策が適用されます。WebSphere JMS のトラブルシューティングの詳細は、<http://www.redbooks.ibm.com/redpapers/pdfs/redp4076.pdf> を参照してください。

**WebSphere サーバーがジョブ実行時にクラッシュする。ログにはエラー J2CA0206W および J2CA0056I の後、SIB データベース テーブルに関連する内部メッセージ エラーが表示**

WebSphere Application Serverは、Java Message Service (JMS) のメッセージを格納するデータベース テーブルを使用しています。メッセージング エンジンがデータストアへの接続を失うといつでも、JVM はデータの損失を防ぐために、通常の方法でシャットダウンします。メッセージング エンジンが実行を継続し、作業を受け入れる場合、結果は予測できず、データ ストア接続が復元されたときに、メッセージング エンジンが一貫しない状態になる場合があります。

この問題を解決するには、基本のデータベース接続の問題を修正します。それでも問題が解決しない場合、データ ソースの既存のプール接続の「再試行の間隔」を変更します。この値は、アプリケーション・サーバーが最初の試行が失敗した場合接続を確立するために再試行する前に待機する時間（秒単位）の長さを指定します。デフォルトでは、この値は 0 です。値を 3 に設定した場合、接続が不正な接続に保持する代わりに再試行されます。この値を変更するには、WebSphere Administrative Console にログインして `Resources > JDBC > Data sources > datasource_name > WebSphere Application Server` データ ソース プロパティに移動します。詳細は、<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21496900> を参照してください。

**IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository またはアダプタの展開時にタイムアウト エラーが発生した場合**

- `<WebSphere profile>/properties/soap.client.props` で SOAP 要求タイムアウトの値を大きくします。次に例を示します。

```
com.ibm.SOAPRequestTimeout=600
```

### 負荷バランサーとして設定した WebSphere プロキシ サーバーを介して IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal にアクセスしているときにエラー 404 が発生した場合

- WebSphere プロキシ サーバー キャッシングを無効にします。
- 有効な URL が IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal: `http://<host>:<port>/peb/` へのアクセスに使用されていることを確認します。

## JBoss

### ユーザーがアイドル状態を維持できる時間を調整するために、セッション タイムアウト値を構成するにはどのようにしますか。

ユーザーがリポジトリにログインした後、セッションが終了され、ユーザーの再認証が必要になるまでに、一定期間非アクティブな状態を継続することが許可されています。この値を増減するには、次の手順を行います。

1. インストール ディレクトリから  
`¥JBoss¥server¥default¥deploy¥jbossweb-tomcat50. sar¥` に移動します。
2. テキスト エディタで `web.xml` を開きます。
3. 「Default Session Configuration」のセクションを見つけて、`<session-timeout>` の値を変更します。
4. アプリケーションを停止し、再起動します。

注： このファイルは、アプリケーションの展開時に処理されます。構成の変更はサーバーが再起動するまで有効になりません。

### 使用している JBoss のバージョンがどのポートで実行されているかは、どのように判定しますか。

JBoss Application Server の HTTP ポートは次のファイルで定義されています。

```
<JBoss home>¥server¥default¥deploy¥jbossweb. sar¥server.xml
```

属性は次のとおりです。

```
/Server/Service/Connector@port
```

### JBoss のリポジトリ FIPS 140-2 準拠にはどのような追加設定が必要ですか？

FIPS 140-2 準拠モードの JBoss で実行する場合にリポジトリが正しく機能するために、`{URIEncoding="UTF-8"}` 属性を HTTPS コネクタに指定する必要があります。

また、コマンドラインで `netstat` コマンドを使用して、使用中のアプリケーションとポートを表示することもできます。

## WebLogic

### null ポインタの例外でリポジトリ構成ユーティリティが失敗する

構成ユーティリティが WebLogic アプリケーション サーバーで IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository を展開（初期インストール後）するために実行されている場合、サーバー サブシステムの障害が `java.lang.NullPointerException` で報告される場合があります。このエラーは、ホスト名にアンダースコア（“\_”）が使用されている場合に発生します。

### 通知メッセージが RSS リーダーに送信されない

このエラーはドメイン レベルの基本 HTTP 認証の失敗によって発生します。ドメインの基本 HTTP 認証を無効にして修正できます。`<enforce-valid-basic-auth-credentials>` 要素を `<security-configuration>` 要素内の `config.xml` に追加して値を `false` に設定します。

...

```
<enforce-valid-basic-auth-credentials>false</enforce-valid-basic-auth-credentials>
```

```
</security-configuration>
```

# IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager のトラブルシューティング

このセクションのトピックでは、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager に関連するトラブルシューティングの役立つ情報が提供されています。

## ログの取得

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager をインストールして使用する場合、なんらかのエラー メッセージや状況が発生する場合があります。どのような場合でも、ログ ファイルを参照して、問題の原因を明確にすることが推奨されます。

- **C:\Documents and Settings\<user name>\Application Data\SPSS\Inc\Deployment Manager\spsemgr.log** このファイルには、Deployment Manager の log4j 出力が含まれています。ファイルの出力は、Eclipse RCP ではなく、Deployment Manager によって排他的に生成されます。
- **C:\Documents and Settings\<user name>\Application Data\SPSS\Inc\Deployment Manager\workspace\metadata\log** このファイルには、Deployment Manager の Eclipse RCP ログ ファイルが含まれています。このファイルに書き込まれたログ エントリは、spsemgr.log にも反映されます（前述の log4j ログ ファイル）。非常に初期の段階のアプリケーションの起動時に問題が発生した場合、アプリケーションが起動できない場合、このファイルを参照してください。

## タイムアウト エラー

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager には、特定の状況でタイムアウトとなる長時間実行のさまざまなタスクがあります。たとえば、非常に多くのバージョンで複雑な IBM® SPSS® Modeler ストリームをコピーして貼り付けると、タイムアウトとなる場合があります。

Deployment Manager でタイムアウト エラーが頻繁に発生する場合、Deployment Manager とリポジトリの通信のタイムアウトを長くすることができます。これにより、長時間の操作を完了することができます。デフォルトでは、180 秒後にタイムアウトします。

タイムアウトの時間を長くするには

1. ブラウザベースの Deployment Manager にログインします。
2. [構成] リストの [Deployment Manager] で [プロトコルタイムアウト] をクリックします。現在の値が表示されます。
3. [プロトコル タイムアウト] テキスト ボックスに、適切な秒数を入力します。
4. [設定] をクリックします。

ジョブ ステップの数が多いジョブの場合、20 ステップが追加されるごとにジョブを保存して閉じることをお勧めします。

## 不完全なゲイン グラフ

JRockit JVM を使用している場合、不完全なゲイングラフの出力 (.jpg) が表示される場合があります。IBM® SPSS® Modeler シナリオ ファイルを含むジョブを実行する場合、ゲインの評価タイプで、作成されるゲイングラフが不完全となります。

JRockit は、NaN を含む式について不適切な数値の結果を生成します。この問題を回避するには、-XstrictFP をパラメータとして JVM に設定するか、別の JVM に切り替えます。

## 「新しいスコアリング構成詳細の作成に失敗しました」エラー

Windows 以外のリポジトリ インストールでスコアリングを設定している場合、スコアリング構成ダイアログが IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager で開いているときに「新しいスコアリング構成詳細の作成に失敗しました」エラー メッセージが表示される場合があります。リポジトリ ホストの <repository installation directory>/components/modeler/modelerserver ファイルの権限を「実行」に変更して問題を解決することができます。次に例を示します。

```
cd /usr/CDS/components/modeler/modelerserver
sudo chmod +x modelerserver
```

# BIRT Report Designer for IBM SPSS のトラブルシューティング

このセクションのトピックでは、BIRT Report Designer for IBM® SPSS® に関連するトラブルシューティングの役立つ情報が提供されています。

## データセット作成時にテーブルがない

BIRT Report Designer for IBM® SPSS® では、Oracle や InfoSphere Federation Server データ ソースに基づいて新しいデータ セットを作成する場合、シノニム (Oracle) やニックネーム (InfoSphere Federation Server) が [使用可能な項目] の [新しいデータ セット] ダイアログ ボックスの左側のパネルに表示されません。

回避策として、[新規データ セット] ダイアログ ボックス SQL select を入力してテーブル データを取得できます。次に例を示します。

```
select *  
from YourTableName
```

YourTableName は Oracle シノニムまたは InfoSphere Federation Server nickname for the actual table.

# IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のトラブルシューティング

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal ユーザーは、ブラウザを使用してファイルの表示や動的レポートの実行を行うことができます。このようなタスクに関連する問題またはエラーは、Deployment Portal システムやコンピュータの構成に関する問題に起因している可能性があります。

システムに関する一般的な問題には、サーバーが実行されていないことが関与している場合があります。一方、PC に関する一般的な問題には、サーバーや ODBC データ ソースの名前の設定など、接続構成が関与している場合があります。詳細は、サイト管理者に問い合わせてください。

## 一般的な問題

ここでは、レポートの実行中や、ファイルを開く際に発生する問題について、考えられる説明をいくつか示します。

**サーバーが実行されていますか？**：サーバーが実行されていない可能性があります。サイト管理者に問い合わせ、サーバーを起動してください。

**権限は適切ですか？**：コンテンツを登録する、動的なレポートを実行する、[マイ レポート] にアクセスするなど、特定のタスクを実行するには、サイト管理者から適切な権限を付与されている必要があります。管理者は、特定のフォルダやファイルに対するアクセスを制限することもできます。

**レポートのデータ ソースは利用可能ですか？** レポートのデータ ソースが利用可能である、つまり、データベース サーバーが実行中でネットワークからアクセス可能である、データベース サーバーのログイン資格情報が有効である、および適切な ODBC または JDBC ドライバが指定されていることを確認してください。ファイル ベースのデータ ソースの場合は、ファイルが存在していることと、ファイルを参照する URL が正しいことを確認してください。

## エラー

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のエラーは、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services システムや PC 構成に関する問題に起因している場合があります。

- 問題に関する説明は、「[一般的な問題](#)」（p. 24）を参照してください。
- レポートを実行している場合は、[マイ ジョブ] フォルダで、レポートのステータス（[完了]、[失敗]、[実行中]）を確認。レポートが失敗した場合、「[レポートの問題](#)」を参照してください。

## レポートの問題

レポートが失敗すると、[マイ ジョブ] 画面の [ステータス] 列に、[失敗] と表示されます。失敗に関連付けられたエラー メッセージを表示するには、[失敗] をクリックします。表示されたメッセージをすべて記録し、サイト管理者に問い合わせてください。

**BIRT Report Designer for IBM SPSS レポートが IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal で実行されている場合に、レポートのデータソースにアクセスするための資格情報がアプリケーションで認証されず、ログイン画面が繰り返し表示されます。**

- レポートのデータ ソースおよび資格情報が正しく定義されていることを確認する。詳細は、『IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager ユーザー ガイド』の該当するセクションを参照してください。
- レポートのデータ ソースが JDBC ベースの場合、適切なドライバがリポジトリとともにインストールされていることを確認する。オペレーティング プラットフォームに固有のドライバ パス情報については、該当するインストール手順を参照してください。

**PDF ファイルとして生成されたレポート出力に各国のキャラクタ セットが正しく表示されない**

特定の UNIX システムでは、デフォルトの JVM フォント設定が、アジア言語の文字など、すべての国のキャラクタ セットに適しているわけではありません。こうした場合、フォント設定ファイルを使用して、デフォルトの JVM フォントを指定する必要があります。Java フォント設定ファイルの詳細は、Sun のマニュアルを参照してください。

**レポート出力を含む添付ファイルにアクセスしようとする、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal で「IOException: リソースが削除されています」と表示される**

JRockit を使用する WebLogic のアプリケーション サーバーでリポジトリを実行すると、例外が発生することがあります。例外が発生した場合は、Sun JRE を使用するよう WebLogic を再構成します。詳細は、WebLogic のドキュメントを参照してください。

**リポジトリを Solaris 10 で WebLogic 10 とともに実行する場合、カスケードパラメータがレポート内で正しく表示されません。**

-Djava.awt.headless=true 開始引数を、アプリケーション サーバーの Java 環境に追加する必要があります。

**WebSphere クラスタで IBM SPSS Statistics データソースに対して BIRT レポートを実行するとリモート例外が発生する (IBM SPSS Statistics データファイル JDBC ドライバを使用)**

クラスタの各ノードの WebSphere 管理コンソールを使用して、Dcom.ibm.ws.classloader.encodeResourceURLs=true を一般的な JVM 引数に追加すると、問題が解決する場合があります。

**DB2 IBM i V6R1 データベースに対して要求された資格情報を使用してリポジトリ内の BIRT レポートを実行すると失敗する**

prompt=true パラメータを JDBC 接続 URL に追加します。

```
Driver Name: com.ibm.as400.access.AS400JDBCdriver  
Driver URL: jdbc:as400://myServer/B101E31E;prompt=false
```

## Office ドキュメントが新しいウィンドウで開かれる

Microsoft Office 2007 と Internet Explorer 7 を使用している場合に、Office ドキュメント (.xls、.xlsx、.csv、.doc、.ppt など) が IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal の新しいアプリケーション ウィンドウで開くことがあります。Office 2007 ドキュメントをインラインで開くには、Deployment Portal コンテンツフレームで、Windows の詳細フォルダ オプションを次のように変更する必要があります。

1. Windows Explorer を開き、次の順にクリックします。  
[Tools] > [フォルダ オプション] > [ファイル タイプ]
2. 目的のファイル拡張子 (たとえば .xls) を選択します。

3. [詳細設定] をクリックします。
4. [同じウィンドウで開く] を選択します。

自己の責任に基づいた上で、Microsoft のオンライン サポート センターの記事 927009 (<http://support.microsoft.com/kb/927009>) の手順に従うこともできます。

注： これらの解決策は、Internet Explorer に対してだけ適用されます。サポートされている他のブラウザには適用されません。

### 関連情報

ファイル タイプに関連付けられたデフォルトのビューアを変更する必要がある場合（.csv ファイルを Excel ではなくメモ帳で開くようにする場合など）は、次の手順を実行します。

1. Windows Explorer を開き、次の順にクリックします。  
[Tools] > [フォルダ オプション] > [ファイル タイプ]
2. 登録されているファイル タイプ（たとえば .csv）を選択します。
3. [変更] をクリックし、選択したファイル タイプを開くときに使用するプログラムを選択します。

# 注意事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3-2-31 IBM World Trade Asia Corporation Licensing

2 バイト文字セット (DBCS) 情報についてのライセンスに関するお問い合わせは、お住まいの国の IBM Intellectual Property Department に連絡するか、書面にて下記宛先にお送りください

神奈川県大和市下鶴間1623番14号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更（たとえば、技術的に不適切な記述や誤植など）は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製

品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとしします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group, Attention: Licensing, 233 S. Wacker Dr., Chicago, IL 60606, USA.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願ひします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## Trademarks

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、SPSS は、世界中の管轄地域で登録された、IBM Corporation の商標です。IBM 商標の現在の一覧については、Web サイト <http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> を参照してください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは米国またはその他の国の Adobe Systems Incorporated の登録商標または商標です。

Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、米国およびその他の国の Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Linux は米国およびその他の国の Linus Torvalds の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは米国およびその他の国の Microsoft Corporation の商標です。

UNIX は米国およびその他の国の The Open Group の登録商標です。

Java および Java ベースのすべての商標およびロゴは、米国、その他の国、または両方の Sun Microsystems, Inc. の商標です。

その他の製品名およびサービス名は IBM またはその他の企業の商標です。



# 索引

- 環境変数, 14
- 暗号化, 14
- 修正
  - 入手, 5
- 問題, 24
- 権限, 24
  
- BIRT レポート処理, 25
- CWSIS1535E エラー, 18
- DB2, 16, 26
- FIPS 140-2
  - JBoss 構成, 19
- HP-UX, 16
- IBM i, 26
- IBM SPSS Modeler アダプタ, 22
- IBM SPSS Modeler アダプタ
  - ファイルのアクセス許可, 22
- IBM SPSS Statistics JDBC ドライバ, 26
- IBM サポート
  - アップデートへの登録, 9
  - お問い合わせ, 5
  - 情報の送受信, 7
- J2CA0056I エラー, 18
- J2CA0206W エラー, 18
- java.lang.OutOfMemoryError: PermGen, 13
- JDBC, 26
- JDBC ドライバ, 25
- JDBC ドライバがない, 25
- JMS バス, 18
- JMS メッセージ, 18
- LD\_LIBRARY\_PATH, 14
- legal notices, 28
- LIBPATH, 14
- Linux
  - AIX, 15
  - “Too many open files...” error, 15
  - インストール, 15
  - ジョブ プロセス, 15
  - トラブルシューティング, 15
  - メモリー エラー, 15
- Microsoft Visual C++ 再頒布可能, 16
- NFS, 16
- Office ドキュメント
  - 新しいウィンドウで開かれる, 26
- Oracle
  - エラー, 17
- PDF, 25
- SHLIB\_PATH, 14
- SIB テーブル, 18
- trademarks, 30
- ulimit, 15
- WebSphere, 18
  
- Windows, 16
  
- アジア言語, 25
  
- インポートの失敗, 16
  
- エラー, 25
  
- ガーベジ コレクション, 13
  
- キーストア ファイル, 14
- キーストア ファイルのバックアップ, 14
  
- 指定された資格情報, 26
  
- 永続ジェネレーション ヒープ サイズ, 13
- 失敗したレポート, 24-25
  
- スコアリング, 22
- スコアリング サービス, 22
  
- セットアップ, 14
- セットアップの実行, 14
  
- データベース ロックの例外, 16
- データベースの障害, 14
- テーブルスペース, 17
  
- ドライバ URL, 26
- トラブルシューティング
  - IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal, 24
  - IBM サポートとの情報交換, 7
  - IBM サポートへのお問い合わせ, 5
  - Office ドキュメント, 26
  - サポート アップデートへの登録, 9
  - システムティックな問題の解決, 1
  - 失敗したレポート, 24-25
  - トラブルシューティングの解決策を検索, 3
  - 一般的な問題, 24
  - ナレッジ ベースの検索, 3
  - 修正の入手, 5
  - 問題の特定, 1

---

**索引**

一般的な問題, 24

**問題の確認**

IBM サポートとの情報交換, 7  
各国のキャラクタ セット, 25

パスワード, 14

ヒープ サイズ, 13

ファイル権限, 22, 25  
フォント, 25

メモリー エラー, 13  
メモリー不足のエラー, 13  
メモリー割り当て, 13

共有ライブラリ, 14

リポジトリの再インストール, 14  
リポジトリ構成ユーティリティ, 16

レポート出力, 25  
レポート処理エラー, 25